「地盤工学会誌」(旧:土と基礎) 読者アンケート集計結果

「土と基礎」1月号(Vol.56 No.600)

特集テーマ:大型プロジェクトの地盤工学的な問題と対処法

回答人数:30 人／46 人中　　回答率 65%

① 最も興味深かった記事について

【1位】 報告(公募):軟弱粘性土地盤上における空港島築造工事への CPT の適用事例

【2位】 報告:飛騨トンネルプロジェクトにおける各段階での地盤工学的な問題と対処法

【3位】 報告:IT を活用した胆沢ダムの合理化施工

② 自由意見欄

I 記事に対するご意見

1	幌延深地層研究計画については以前から興味をもっていたので、興味深く読みました。
2	建設分野毎からみた地盤工学の知見や法体系などとの関係は、読者に参考になると思いますので、これからも続けてください。
3	「IT を活用した胆沢ダムの合理化施工」の記事に興味を持ちました. 大学の現場見学で胆沢ダムに行ったことがあります. そのときも IT を活用した施工に取り組んでいました. 記事のおわりに, 技能者の確保が困難なため, IT を活用した施工技術を発展させる必要があるとありましたが, 逆に IT 化を進めていくことで IT に頼り, 次世代の技能者が生まれないのではないかと思いました.
4	口絵の写真、図であまりに解像度の低いものは、解像度を高く取り直してもらうか、使わないかの配慮が必要であると思います。 内容的には、十分に学会誌として満足できる内容です。
5	大規模プロジェクトでは、最先端の技術を使われていると思いますが、問題点があまり明らかにされていない報告もあり、たとえば「IT を活用した胆沢ダムの合理化施工」のようにもっと具体的に合理化には何が問題でというところの本音も少し、書いてほしい。
6	CPT の適用事例に関する記事は大変興味を持ちましたが、反面、軟弱地盤における適用事例としてはずいぶんと事例の蓄積が進んでいるようにも思っていまして、サウンディングツールとしてより一般化(通常業務的な使用用途として)が進めば、と思いました(そのためには手引きやマニュアル、等の仕様関係が必要でしょうか・・・)
7	最近、災害事例に偏りがち。
8	IT 技術を利用した施工管理に関する記事は興味深かった.
9	今月号のような現在進行のプロジェクトについての「報告」は、非常に有用な情報であると思う。今後は、このようなプロジェクトの後追い記事も数ヶ月、数年後に掲載していただければ、非常に有益だと思われる。

10	飛騨トンネルの記事に関して、地質に対する評価の変遷は非常に興味深かった。長年にわたる施工で工事技術の進展とともに、地盤の評価も変わっていく様子が生々しい。
11	考えてみれば土と基礎は字が多く、体裁も論文集に近いものがあり、内容も深く全体を通して読むには時間がかかる。では他の学会はどうなのだろうと思い、土木学会誌と建築学会誌を開いてみた。土木学会誌はいつだったか編集方針に大転換があり、雑誌的な記事の構成・レイアウトになっていて読みやすい。建築学会誌も同様であるが、語りたい人が多い業界なのか字数は多い。土木学会誌が方針転換したとき、以前と比べて軽薄になったと批判する声もあったがこの読みやすさは捨てがたい。すべての読者がそれぞれのテーマについて深い理解を求めている訳ではないだろうし（多くはそのテーマに対して門外漢であろう）、“読み易さ”に視点をおいた編集というのも考えて見てはどうだろうかと思う。
12	龍岡会長の「年頭のあいさつ」，「地盤工学 60 年の歩みと大型プロジェクト」について私が地盤工学に深く携わるようになったのが、大学院入学の年（2001 年）からですので、それ以前の地盤工学の歴史について触れることができ非常に有益でした。
13	特集テーマに基づいて記事が掲載されているので、内容を理解しやすかった。
14	専門に入り過ぎていて、ある程度の知識を有し、且つ地盤工学に興味を持っていないと読みづらいものであると感じます。
15	飛騨トンネルプロジェクトの話題は大変興味深かったが，口絵写真の質が悪すぎてもったいないと感じた。 スキャンしただけの図と思われるが，フォントだけでも作り直すべきだったと思う。
16	現在、日本で行われている大規模なプロジェクトについて、特に、地盤に関する諸問題やそれに対応するための対処法を知ることができて良かったと思います。これらの紹介されている技術は、地盤工学に関して最先端のものと思いますので、我々が携わるような一般的な工事に、すぐに取り入れられるものではないと思いますが、このようにどんどん紹介されていくことで、徐々に一般の工事にも浸透していくのではないかと思います。
17	口絵写真—1～3（特に文字）が見辛いと感じた．せっかくの貴重なデータであるため，不要な記述は削除し，必要な記述はより明確にするなど，高い品質のものを掲載していただくと良いように思う．
18	報告：「飛騨トンネルプロジェクトにおける各段階での地盤工学的な問題と対処法」の口絵写真-1～3 の文字が小さいことと、画像が不鮮明で見づらかったです。

Ⅱ　今後取り上げてほしい記事

1	産業廃棄物地盤について取り上げてほしいと思います.
2	土質技術者のための地質学基本講座
3	中越地震から 3 年以上が経過して、ほぼ復旧工事も終わりですが、災害復旧の現状と理想像等があればと思います。
4	有明湾や空港島周辺などの軟弱粘性土地盤を対象とした大型プロジェクトの事例が紹介されていましたが、他の例として、例えば①圏央道（地盤環境問題）、②北海道新幹線（トンネル計画のための地質調査や泥炭地における土構造物（線路）等の計画等）、等が思い浮かびました。
5	IT 技術の地盤工学への応用に関する記事
6	単純せん断試験機に関する研究報告　→　モール円表示の仕方やφの算出方法に関する内容
7	今月号で紹介したプロジェクトでもあったが、広範な現場における施工段階からの維持・管理において、新しい IT 技術やユビキタス社会の到来で可能となった最新の技術を取り上げていただきたい。
8	p.43 のような寄稿文を専門家ではなく被災者にお願いしたらどうかと思う。
9	今回の「地盤工学 60 年の歩みと大型プロジェクト」のような地盤工学の歴史についての特集
10	基礎構造の変遷、地盤力学の歴史等。
11	アジア地域における地下水環境の報告は興味深いものであった。日本の土木技術がアジア地域に貢献しているような明るい記事を掲載して頂きたく思います。
12	もっと、地盤工学について興味や好奇心を持ってもらうために楽しさを伝え、興味のないものが読みたくなるような記事を取り上げてもらいたいと思います。 また、文章量が多いため、カラー写真や絵を多用し、文字量を減らし、読みやすく分かりやすい構成にしていただけることを望みます。
13	現在行われている事業の経過報告
14	土壌汚染及び地下浸透関連の記事をお願いしたい。
15	講座のあったような火山関係についても特集なりを組んでほしい。